

# 島義勇

しまよしたけ

## 北の大地を切り拓いた開拓者。理想へ突き進む、体当たり人生。

- 《人物像》
- 火が付きやすい情熱型
  - 思い立ったら一直線
  - 自ら切り開くチャレンジャー精神

Shima Yoshitake

### 熱き心で、極寒の大地を切り開く

佐賀藩士島市郎右衛門の長男として佐賀城下精(しらげ)小路に生まれる。通称は団右衛門。9歳の頃より藩校弘道館に学び、23歳で卒業。家督を継い後は諸国を遊学し、佐藤一斎や藤田東湖らに学ぶ。帰国して藩主鍋島直正の外小姓、弘道館目付となる。校吉神陽の「義祭同盟」にも創設期から参加し、そこで江藤や大木とも出会っている。

そして1856年、直正公の信頼も厚かった島はその命で、当時の未開拓地であった蝦夷地(現在の北海道)の探検に随行。厳しい寒さの中、約2年に渡って歩き続け、その詳しい調査結果を記した「入北記」を残している。佐賀に戻った島は直正に蝦夷地への移民を進言するが、まだ時期尚早と断られている。

明治新政府では直正が蝦夷開拓督務となると、その経歴を買われ、開拓使判官に就任。北海道開拓の町づくりを任される。極寒の中、札幌を中心とした町づくりを進めるも予算による衝突で志半ばで解任。後に秋田権令となるも、ここでも中央政府とぶつかりまたも解任。後の佐賀の役では憂国党の党首となって戦うも、捕えられ、53年の生涯を終える。

#### 【概略年表】成え終

1822	文政5年	1	9月12日、島市郎右衛門の子として佐賀城下に生まれる
1830	天保元年	9	藩校弘道館に入学
1844	弘化元年	23	弘道館を卒業して諸国に遊学
1847	弘化4年	26	弘道館目付、藩主鍋島直正の外小姓となる
1850	嘉永3年	29	義祭同盟発会式に出席。江藤新平、大木喬任などを知る
1856	安政3年	35	鍋島直正の命により北海道、樺太の探検調査に出発
1858	安政5年	37	帰藩、御蔵方、同組頭から香焼島守備隊長となる
1867	慶応3年	46	藩命で軍艦奉行、朝令で陸軍先鋒参謀の佐賀藩兵付となる
1869	明治2年	48	蝦夷開拓史首席判官として北海道に赴任
1870	明治3年	49	蝦夷開拓史首席判官解任/明治天皇の侍従に任命
1872	明治5年	51	秋田県権令となり八郎潟干拓施策を打ち出すが4ヶ月で解任
1874	明治7年	53	佐賀の役、鹿児島で捕縛され、4月13日没

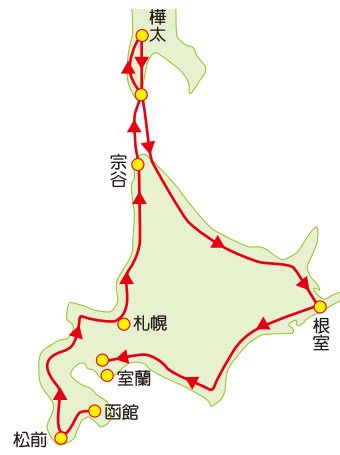
【1889年(明治22年)賊名を解かれ、1916年(大正5年)従四位を贈られた】



◀現在の札幌市の様子。島が極寒の寒さに耐えながら切り開いた荒れ地は多くの人々の生活と憩いの場となっている



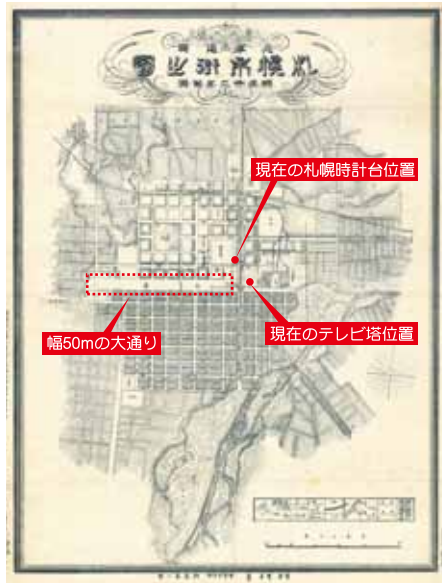
▲「入北記」(北海道大学付属図書館蔵) 島が2年間に渡る北海道探検の記録をまとめたもの。植物や生態、アイヌの人々の生活の様子など、図入りで詳しく描かれている



▲島が2年間で歩いた道程。現ロシア領の樺太にも渡っている。寒い夜は犬を抱き締めて暖をとったとのこと。大変な苦勞がしのばれる

### 極寒の大地で 島が目指した理想郷

島が都市設計の基礎を行った札幌の街、地図で見ると、道が基盤の目のように並び、地名にも一条、二条と言う名前が並んでいる。実はこれ、島が京都の町並みを参考に設計したため。ここに日本一の町作りを目指した島だったが、厳冬の状況下、その工事は困難を極め、1年分の予算を3ヶ月で使い果たしてしまい、想い半ばで解任になってしまう。しかしその先駆者たる島は札幌開拓の父として、最初のほうに掲載し紹介している教科書もあるのだ。



▲1889年(明治22年)の札幌地図(札幌市中央図書館蔵) 基盤の目のように整然と整備された町並みの中央には、当時としては類を見ない幅50mの大通りが見て取れる

### 島を駆り立てた 船中での挑発

士族による不穏な動きがある佐賀へ向かうために島が乗り込んだ船。そこには、佐賀知事として赴任する岩村高俊の姿もあった。船中、岩村は取巻き相手に佐賀人を高声にのしり、それを聞いた島は岩村と掴み合いの喧嘩になる。翌日、下関で降りた岩村が兵隊を連れて佐賀に乗り込むと聞いた島は怒り、討伐されようとしている佐賀のために起つ決心を固めたという。

### 盟友必ずしも同志ならず 盟友・江藤新平との関係

島は尊王攘夷の本場である水戸の学者、藤田東湖に思想的に傾倒しており、義祭同盟の志士たちの中でも特に過激な攘夷論者として知られていた。佐賀の役で江藤新平と一緒に戦ったのは思想的に近い同志というよりも、各々の事情で政府軍を共に迎え討ったというのが真相らしい。



▲「佐賀県逆動新聞」1877年刊(佐賀県立博物館蔵) 佐賀の役を描いた錦絵。島や江藤の姿も描かれている。



▲束帯姿の島義勇(北海道大学付属図書館蔵)

### 二つの呼び名 「団によんさん」と「判官さま」

島は幼名を団右衛門といい、佐賀では「団によんさん」と呼んで親しまれていた。また札幌では開拓判官だったことから「判官さま」と呼び慕われ、その名も「判官さま」というお菓子まで販売されている。これ、何と北海道神宮の休憩所に行けば無料でいただける。中に粒あんが入った焼きもちで、生地に含まれるそば粉の香りが鼻腔をくすぐる。



▲島の愛称「判官さま」の名がつけられたお菓子  
●六花亭  
☎0155-37-6666



▶札幌市役所のロビーに立つ島義勇像

あなたにとって島義勇とは？

### 北の大地を切り拓いた佐賀の誇り

佐賀市八戸在住  
井手 良治 さん



島は佐賀が誇る賢人の一人ですが、実は地元佐賀では余り知られていない賢人の一人なんです。それは彼の功績のほとんどが北海道や秋田など北の方に集中しているからなんです。私の同級生も北海道在住なのですが、佐賀県人の先進性は高く評価され、島の銅像や記念碑もたくさん立てられています。佐賀の偉人がそんな遠い土地で親しまれているのは嬉しいです。これからは地元佐賀の皆さんにも、もっと人間、島義勇のことを知って欲しいです。

島義勇を知る入門の一冊

#### 「島義勇」(佐賀偉人伝05)

佐賀城本丸歴史館が刊行する幕末明治に活躍した人物伝シリーズ。開拓判官として北海道開拓にかけたその足跡に絞って書や絵図などと共に詳しく紹介している一冊。

榎木洋介 著/佐賀城本丸歴史館 刊  
1000円(税込)



### 島義勇足跡探訪コース【約2時間】(移動約95分+観光散策約25分)

モデルコース その生誕地から墓所まで、佐賀に残るその軌跡を辿る

<p>徒歩で約15分</p> <p>島義勇誕生地 地図▶P35 F-8</p> <p>佐賀大学の北側の細い路地沿いにある、当時島家の屋敷があったとされる場所。今では石碑が立つのみ。</p> <p>☎佐賀市与賀町1342付近 ☎佐賀市観光振興課☎0952-40-7110</p>	<p>徒歩で約15分</p> <p>宝琳院 地図▶P35 G-9</p> <p>佐賀の役の際に島義勇率いる憂国党が本堂とした寺。</p> <p>☎佐賀市鬼丸町12-30 ☎0952-25-2848</p>	<p>徒歩で約15分</p> <p>殉国十三烈士の碑 地図▶P35 G-8</p> <p>江藤や島をはじめ、佐賀の役で殉死した13人を慰ふ慰霊碑。県立博物館近くの歩道沿いにある。</p> <p>☎佐賀市城内1-15-23付近(佐賀県立美術館・博物館敷地内) ☎佐賀市観光振興課☎0952-</p>	<p>徒歩で約15分</p> <p>万部島(佐賀の役記念碑) 地図▶P35 G-8</p> <p>鍋島家の安泰を祈って法華經一万部を読んだ小さい島の跡。敷地内の「佐賀の役記念碑」を恐るしげな亀(亀跡)が背負う。</p> <p>☎佐賀市水ヶ江1-8-5付近 ☎佐賀市観光振興課☎0952-40-7110</p>	<p>徒歩で約10分</p> <p>弘道館跡 地図▶P36 G-8</p>	<p>徒歩で約10分</p> <p>来迎寺 地図▶P34 C-3</p> <p>葉隠のふるさと、佐賀市金立町の小高い丘の上にある島家の菩提寺で、島義勇も今はここで静かに眠っている。</p> <p>☎佐賀市金立町大字金立1660 ☎0952-98-1025</p>
--	--	--	--	---	---

はみだし情報 秋田県令の島は八郎潟開拓予算資金を政府の井上馨に要望したが完全無視され、その後つみあわんばかりの大論争をしたが結局予算がつかず免官されてしまった。八郎潟干拓は昭和23年なので、島の先見の明からは75年もの月日が流れている。